

「田園空間博物館 甲州市勝沼町」

～そこは屋根のない博物館～



「田園空間博物館」とは
農村には、美しい景観や自然のほか、人々のいとなみによって長い間に培われてきた伝統や文化など、様々な魅力が存在しています。
これらの魅力を「博物館」として見立て、農村地域を一つの「屋根のない博物館」として、保全・活用しようという取り組みが「田園空間博物館」です。



甲州街道 勝沼宿

トンネルワインカーヴ

勝沼ぶどうの丘には利用されなくなったトンネルを活用したワイン貯蔵施設である「トンネルワインカーヴ」が整備されています。これは甲州市が廃線となった中央本線旧深沢トンネルをJR東日本から譲り受けたもので、全長約1100mのトンネルは、地元で製造されたレンガで構築されています。トンネル内部は年間を通じてワインの貯蔵に適した環境が保たれており、様々な銘柄のワインが数多く貯蔵されています。



甲府盆地の東部に位置する甲州市勝沼町は、山梨県の代表的な果樹産地となっており、ぶどうの栽培が盛んに行われています。またワイン造りも盛んで、町には多くのワイナリーが点在しています。勝沼でのぶどう栽培は、一説には1300年ほど歴史があると言われています。明治時代になると、新政府の施策のもと、ぶどう栽培とともに、ワイン産業の振興に力が入られました。また1903年には中央本線が開通し、東京と勝沼町が鉄道により結ばれ、ぶどうの出荷に大きな変革をもたらしました。さらに「甲州街道 勝沼宿」は、甲府盆地の東側の玄関口として古くから栄えており、勝沼は農業以外の面においても、長い歴史を誇っています。

ぶどうワインの郷 勝沼

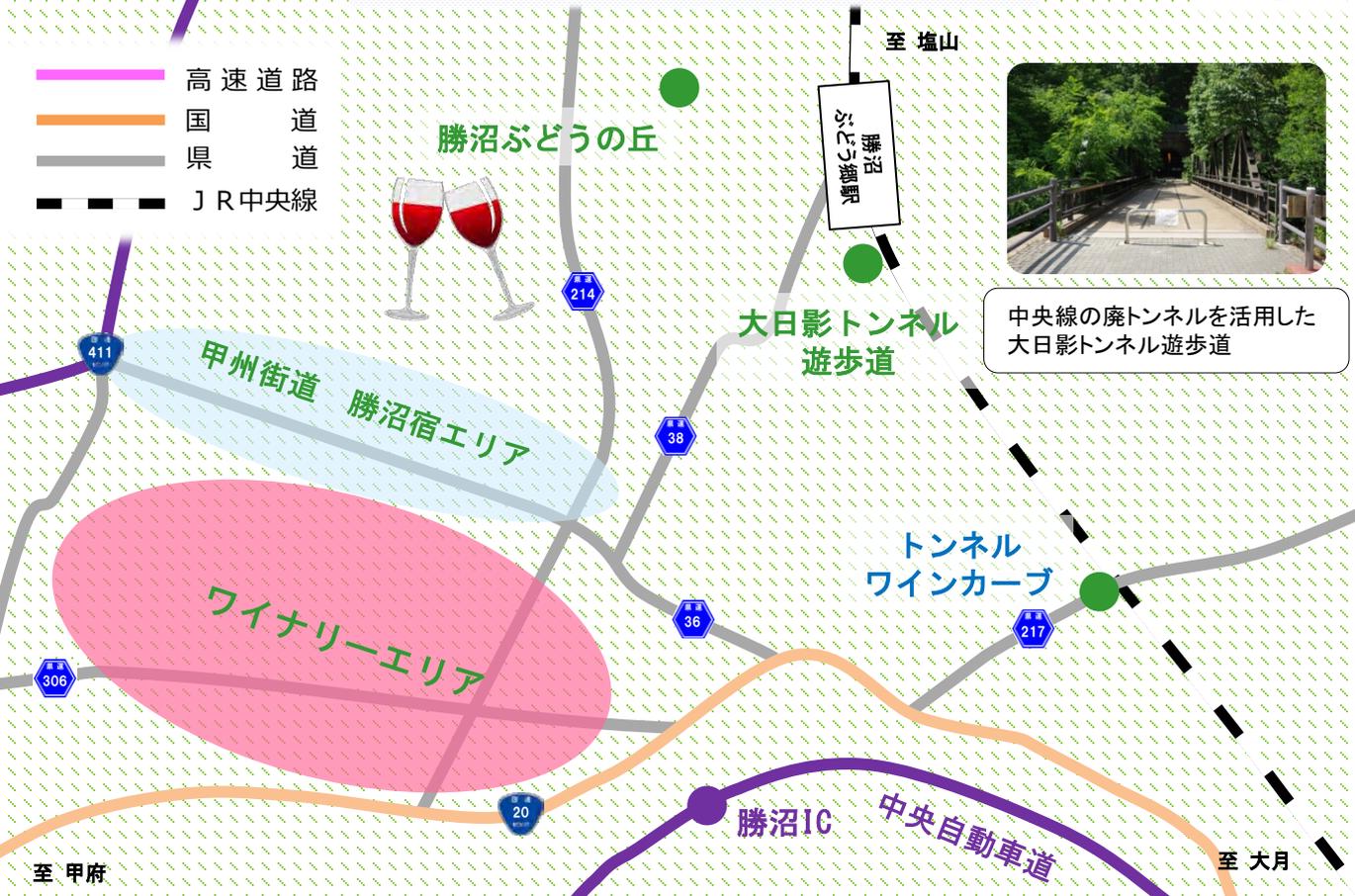
豊かな農村景観

このような歴史から、勝沼にはぶどうとワインを中心とした農村と文化が息づいています。とりわけ、扇状地に広がるぶどう畑が織りなす景観は、甲州街道勝沼の町並みや、西洋風のワイナリーと調和し、本県を代表する農村景観の一つとなっています。他にもぶどうの輸送に活躍した中央本線の旧線跡など、ワイナリー以外の近代産業の遺構も多く残っています。また平成29年には甲州市を含む峡東地域が日本農業遺産に認定され、JR東日本主催の、観光列車でワインを楽しむツアーが企画されるなど、「ワインの郷 勝沼」は県内外に広く知られています。

田園空間博物館 MAP



-  高速道路
-  国道
-  県道
-  JR中央線



中央線の廃トンネルを活用した大日影トンネル遊歩道

博物館の中心となる「勝沼ぶどうの丘エリア」、国内随一のワイナリーが集まる「ワイナリーエリア」、古い町並みが残る「甲州街道勝沼宿エリア」などが遊歩道や周遊バスなどで結ばれています。また、周辺には観光農園が建ち並び、新鮮な果物を味わうこともできます。

日本農業遺産

日本農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化や多様性などが一体となった農林水産業システムのうち、歴史的重要性を有するものを農林水産大臣が認定するものです。

現在、「山梨県峡東地域(山梨市、笛吹市、甲州市)の盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」をはじめ、全国で8地区が選定されています。

勝沼ぶどうの丘

田園空間博物館の中心となる施設です。温泉やレストランなどを備え、特に地下のワインカーヴでは市の審査会に合格した約200銘柄のワインが貯蔵されており、試飲を楽しむことができます。



ワイナリーエリア

勝沼町祝地区は甲州ぶどう・勝沼ワイン発祥の地であり、国内随一のワイナリーが集まっています。多くのワイナリーを徒歩で巡ることができ、ぶどう畑を散策しながらワインの歴史に触れることができます。

